

モールス練習機 取扱説明書

Ver6.1110

本機はモールス通信の普及発展を願って特別企画した有料の販売促進品です



1 接続及び操作方法の概要

- 1 エレキーの場合は付属のコードの網線(アース)をキーのアースに、赤を短点端子に、白を長点端子に接続します、コードのプラグを KEY IN ③に差します
- 2 モードスイッチ④ を エレキーとして使う時は E KEY 側にします、(注)エレバグとして 使う時は E BUG 側にします
- 3 縦振りキー(バグキーや複式キー等)の場合は付属のコードの網線(アース)をキーのアースに コードの白をキーの出力端子に繋がます(赤は使いません)モードスイッチ④を E BUG 側にします
- 4 本体後ろの電源スイッチを ON にします
- 5 音量は⑤のツマミで合わせます
- 6 ①のツマミは エレキーの時のスピード調整です
(エレバグの時は短点のスピード調整です)
- 7 スイッチ②は 記録 再生の時に押します
(音量ボリュームの左の バスブーストスイッチは OFF にします)

エレバグについて

(注)エレバグキーはエレキー用パドルでバグキー風の符号が手軽に出せます、長点はパドルを押している間だけ、任意の長さで出し、短点やスペースを所定の長さに調節します。「599」や、VAなどで、少し長めの長点を打って、気分のこもった信号が出せ、しかもスペーシングが回路で整えられるため、聞き易い符号が打てます。

2 特徴

- ① E KEY(エレキー), E BUG(エレバグ) の2モードで動作します
- ② エレバグモードでは、長点が、任意の長さで出せます

縦振れキーの場合このモードの長点側を使います
短点の長さ、マーク間のスペースは、規定の長さに揃えられます
これにより、エレキーの気軽さで、バグキーライクな符号が打ち出せます

- ③ エレキーにも切り替えられます
- ④ エレキーのモードで記録できるメッセージメモリーを1チャンネル搭載しています
- ⑤ メッセージメモリーは不揮発、スイッチを切っても、内容が消えません
- ⑥ モード切り替えはスイッチにより、パネル面で位置を確認できます
また、メッセージの記録、再生とも、操作は簡単です
- ⑦ 単Ⅱ電池2本で動作します(電池は別売です、市販の単Ⅱアルカリ電池をお使い下さい)
- ⑧ モニター出力つきです

3 使い方

3.1 準備

まず電池を入れます、電池は単Ⅱが2本です(電池は別売です) 電池の向きに注意します。

次に、パドルを前面のキー IN 端子につなぎます。

ここでPOW(電源)スイッチをONにします。

SPEED(スピード)とMON(モニター)つまみは、中央に合わせておきます。

3.2 E KEY(エレキー)モードでのオペレーション

モード切り替えスイッチを E KEY 側にします。

キーの長点側を押せば長点、短点側を押せば短点、両方を同時に押せば、長短点が交互に出ます。

モニターの音量をつまみで合わせ、スピードつまみで、好みのスピードに合わせてみます。

3.3 エレバグモードでのオペレーション

モード切り替えスイッチをE BUG にします。これでエレバグモードの動作になります。

長点パドルを長く押し、長一い長点が出る事を確認します。長点はマニュアルで、短点とスペースは自動で整えられます。

長点と短点の間のスペース、長点同士の間スペースとも、パドル操作で短すぎても、きれいに調整されて信号が出ます。

色々な符号を打ってみます。信号はスペースが整えられ、補正動作がスムーズに得られていることがわかります。(ただし、短点より長いスペースは補正できません。)

3.4 縦振りキー(バグキーや複式キー)でのオペレーション

モード切り換えスイッチを E BUG にします、

4 メッセージメモリーの使い方

4.1 メモリーチャンネル

メモリーは1チャンネルです、PB/REC を用いて操作します。

4.2 メッセージの記録

モードスイッチを E KEY にします (E BUG モードでは記録出来ません)

符号を記録する場合は、PB/REC を2秒ほど押します。

すると、モニターから“R”が聞こえるので、聞こえているうちに手を離してください。

するとさらに、“BT”が聞こえます。RとBTは、普通、違ったスピードで聞こえます。BTのスピードが、現在のスピード設定つまみの位置によるものです。

BTの後、パドルを操作してメモリーに符号を入力します。

記録が終わったら、すぐに PB/REC を押してください。

すると、キーヤーは“AR”をモニターから出して、記録を終了します。

メモリーが一杯になると、キーヤーは勝手に“AR”を出して記録を終了します。

4.3 メッセージの削除

記録をキャンセルしたい場合は、BTのあと、何も入力しないでプッシュスイッチを押します。

キーヤーは、“T”の音を出して、そのチャンネルのメモリーをキャンセルします。

入力で間違った場合は、プッシュスイッチを押して記録を一旦終了し、上記の操作でキャンセルするか、上書きします。

4.4 メッセージの再生

メモリーを再生するには、PB/REC を短く押します。

スイッチを離したら、すぐに再生が始まります。

途中で止めるときには、長点パドルを押します。

再生しようとした、メモリーが空の場合は、キーヤーは“T”をモニターから出すだけです。

4.5 メッセージメモリーの容量

およそ1000個の長点、短点またはスペースが記録されます。

これは文字数にして、約250字です。

- デザイン、色やパーツが変更になる事があります
- ケースの分解をしないで下さい、分解すると初期の性能が発揮出来なくなります

(株) GHD キー

〒981-3326 宮城県黒川郡富谷町明石字下向田 24-14

Tel 022-779-0681 Fax 022-779-0682